

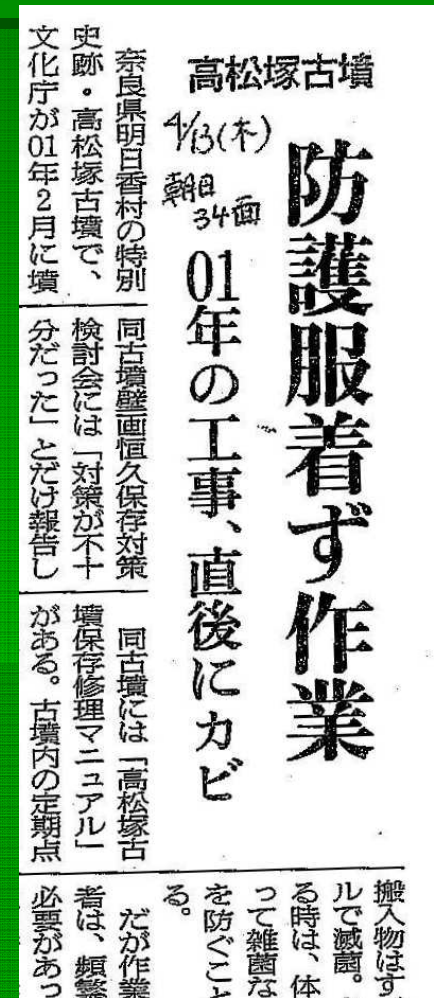
取合部天井の崩落止め工事について

文化庁

報道の経緯

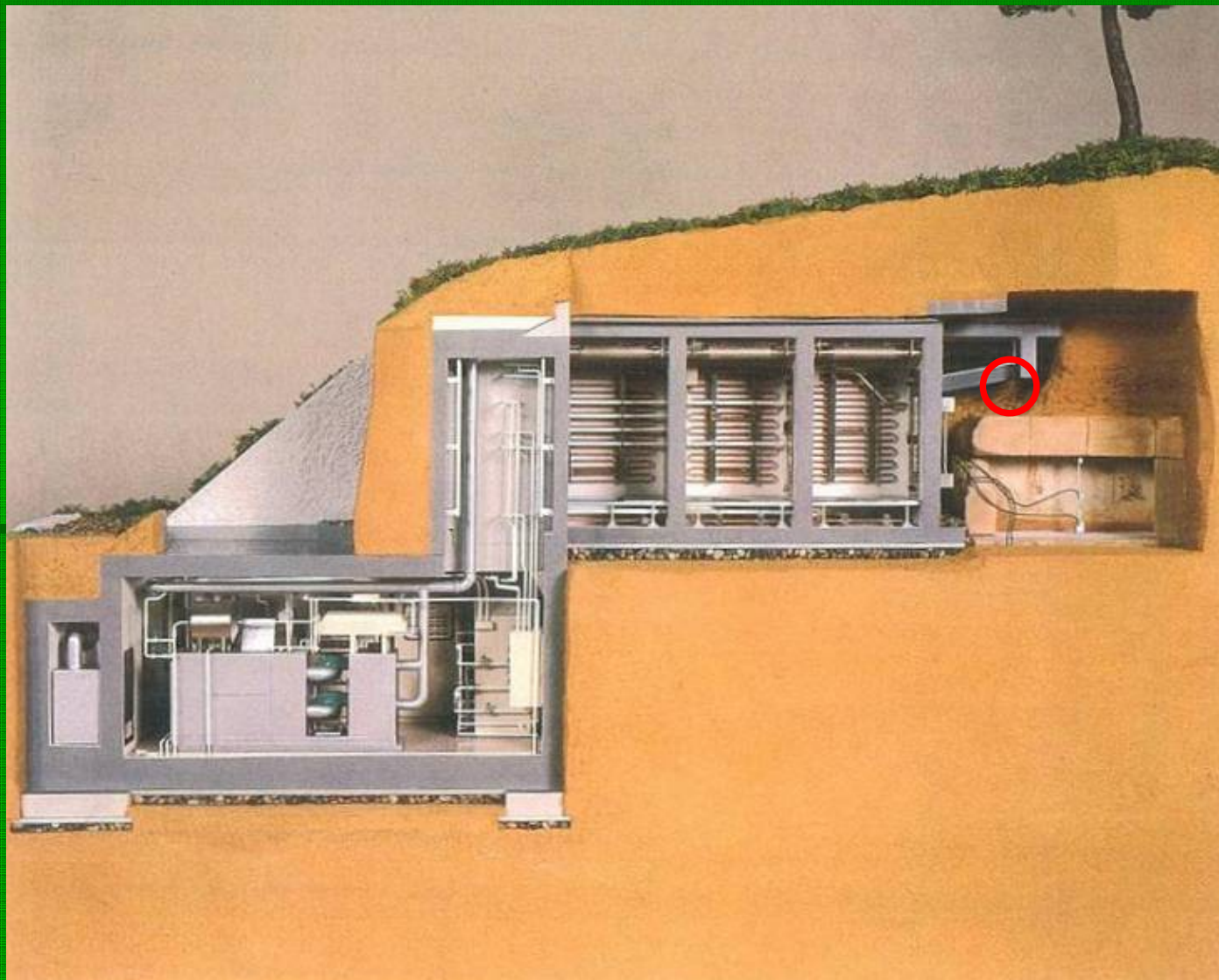
朝日新聞(平成18年4月13日朝刊)
紙上において、平成13年2月の当該
工事の内容に言及

- ・防護服着ず作業
- ・工事直後にカビ
- ・「マニュアル違反」



取合部とは？

保存施設と石室の接続部
版築等の土が露出



本件に関する過去の公表経緯

国宝高松塚古墳壁画緊急保存対策検討会（平成15年3月）

写真集『国宝高松塚古墳壁画』（平成16年6月）

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会（平成17年5月）

文部科学大臣の国会答弁（平成17年8月 衆・文科委）

文化庁次長の毎日新聞インタビュー記事（平成17年8月）

→ 「工事の際の**カビ防止策が不十分**であった」等
として、当該壁画における微生物被害の原因の
ひとつであることを認めてきたところ

背景

平成2年頃より天井の土の崩落を確認



平成4年

工事内容

天井・両脇の土の崩落を防ぐための強化工事

- ・版築壁の強化
- ・崩落部修復
- ・版築とブロックの隙間埋
- ・表面に「擬土」を塗付

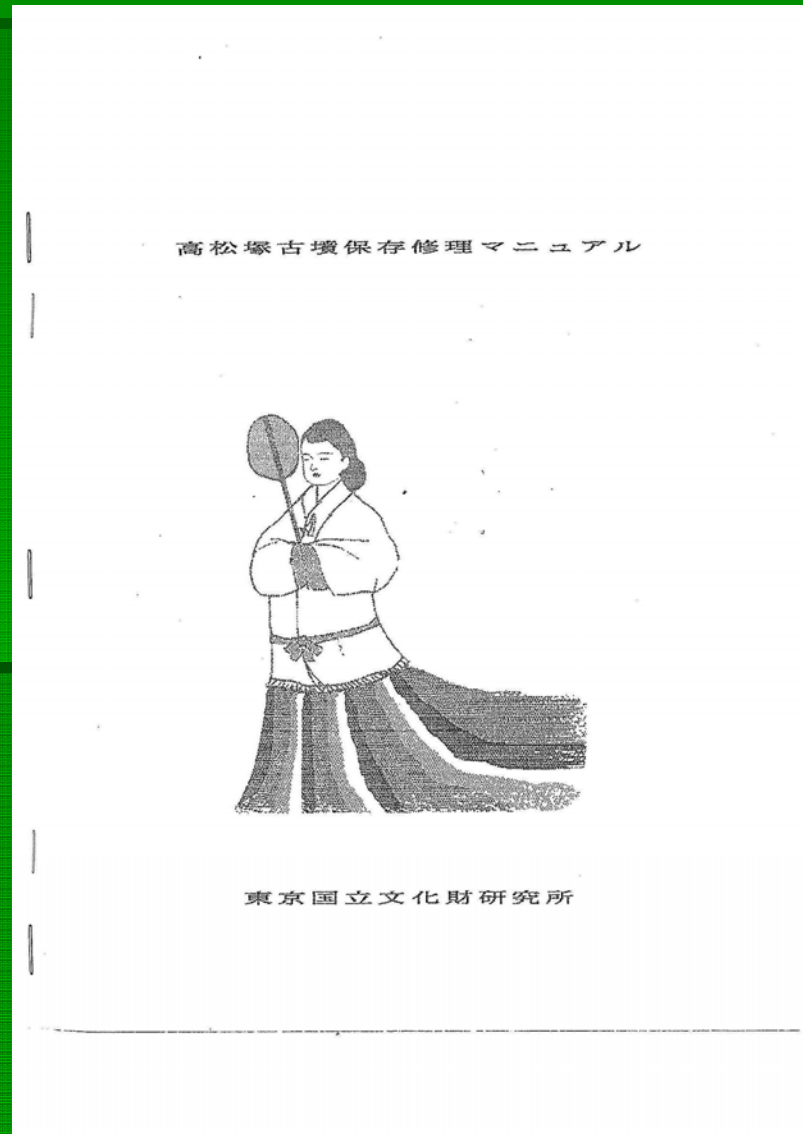
工事風景

取合部において石室を閉じたまま作業



高松塚古墳保存修理マニュアル

石室内作業の際の
関係者の共通理解
のための資料



工事後の経過

平成13年2月末

工事検査「わずかにカビ」

3月

点検

取合部にカビ 石室開けず

7月

取合部に防黴剤

9月

1年半ぶりに石室内点検

カビを確認

12月

点検 石室内にカビ大発生

取合部のカビ(平成13年3月)



石室内のカビ(平成13年12月)

